

信州（長野県）地域エネルギーリサーチセンター

著者

上級研究員 岡田 久典

2023年度の本リサーチセンターの活動は、長野県富士見町についての共同研究を行った。

第1回研究会

開催日：2023年9月25日（月）午前

出席者：中島恵理(長野県元副知事、富士見町まちづくりラボ代表)、柳沢貴雄(里山形成専門家)、
梶山正信(早稲田大学招聘研究員)、青木信之(写真家)、岡田久典

第2回研究会

開催日：2024年1月19日（金）午後

出席者：中島恵理(長野県元副知事、柳沢貴雄(里山形成専門家)、梶山正信(早稲田大学招聘研究員)、
青木信之(写真家)、岡田久典

<研究成果>

長野県富士見町まちづくりラボでは地域内の関係者のネットワーク化を図るため、伊那市ミドリナ委員会の取組など持続可能な森づくりに関する勉強会や現地見学会等を計6回開催した。2023年度より八ヶ岳山麓で植林活動を行う森の絆実行委員会のメンバーとして活動している他、森の落ち葉の堆肥化等サステナブルリゾート活動を行う富士見パノラマリゾートとの連携による活動を構想している。

地域内のネットワークを生かし里山保全の実践のため、森林環境保全に対する知見や技術、森林資源の利活用の技術を習得するための市民向けの森の学びの連続講座を開催する。また幅広い市民と森との関係を近づけ、持続可能な森の利用の在り方のモデルづくりとして“富士見版森のマルシェ、植林とたき火イベントを”開催する予定である。

里山保全活動を担う実践者やコーディネーター人材の育成により林業振興、環境保全、市民の森づくりを一体的に行う50年の持続可能な森づくりを具体的に実践していく必要がある。

各種の連携をもとに八ヶ岳山麓での植林活動の持続的な発展に貢献するとともに、パノラマリゾート周辺の里山保全活動を行うことで高山植物の復活・間伐・植樹等への針広混交林への転換を目指し、サステナブルツーリズムのプログラムとして発展させていくことが必要であろう。

里山保全・再生の推進には、地域内外のネットワークに基づいた多世代共創の仕組みが必要不可欠である。また同時に森林（里山）環境保全に対する知見や技術、森林資源の利活用の技術を参加者が共有する仕組みも必要である。

とりわけ特定の生物資源を保全する従来型の事業に比べて里山保全活動は、地域の様々な活動との関係性の維持や行政や各種ステークホルダー・大学との幅広い関係が必須である。

長野県富士見町における森林・里山の観点からの地域循環共生圏づくり



「富士見まちづくりラボ」が主体となって、50年先を見据えた

持続可能な森ビジョン構想づくりに向けた学び・ネットワークづくりを実践

富士見町における宝である森・富士見町においてどのような森づくりをしていくか

共有財産としての森づくり

森の活用による地域経済循環



- ・生物多様性を高める自然環境保全の森
- ・山地保全（土砂災害の防止）
- ・水源涵養・水資源保全の機能の工場
- ・森林生態系の健全性と活力

- ・森林の生産力と林業経営の向上
- ・適地適木を評価した森林づくり
- ・森林資源のカスケード・循環利用
- ・林業、木材・建築・木工産業の振興
- ・市民の森へのふれあい（教育・観光）

企業 林業事業者 森林所有者 建築事業者 木工事業者 観光事業者 自然教育 農家 行政 エネルギー事業者 市民



長野県全県の女性ネットワークで森のビジョン構想の機運づくりへ

(見えてきた課題)

- ・地域の林業資源の地域外流出、地域内活用システムの欠如
- ・共有財産としての森づくりと森の活用による地域経済循環を実現するための行政の枠組みの欠如、専門的知見不足
- ・共有財産としての森を守るための資金的な仕組みの欠如